

凡 例

和英編は、左より「読み」「用語」「英語（人名は原語）」の順、英和編は「英語（人名は原語）」、「用語」、「読み」の順で並べてある。

「読み」はひらがなを基本としているが、算用数字はそのまま、アルファベットおよび人名はカタカナで掲載してある。

例：ぎやく	偽薬	placebo
例：18 とりそみー	18 トリソミー	trisomy 18
例：エックスせんしょくたい	X 染色体	X chromosome
例：ギャッチベット	ギャッチベット	Gatch bed (Gatch は人名)

「用語」の内、人名は原語を原則としたが、広く知れ渡っているものはカタカナを併記してどちらの使用も可とした。

例：Down 《ダウン》症候群, Sjögren 《シェーグレン》症候群

「英語」は本来英語にない語句を英訳したものも含まれている。また、英語が発表されていない用語は英語部分を省いてある。

例：おしつぶし 押しつぶし【摂食】 crush

〔 〕内は、省略してもよいものを示す。

例：高血圧〔症〕

() 内は、使用してよいもの、あるいは略号またはその逆を示す。

例：うなずき嚥下 (あご引き嚥下), 国際生活機能分類 (ICF)

《 》内はその前の語と置き換えられるものを示す。

例：初《早》期治療 (初期治療, 早期治療)

【 】内は、説明または注釈を示す。

例：条件づけ【心理】(条件づけは心理学の用語)

例：Albright 遺伝性骨異栄養症【偽性副甲状腺機能低下症】(偽性副甲状腺機能低下症の中に Albright 遺伝性骨異栄養症が含まれている)

/ は同義語の区切りを示す。

例：mute/dumb

→印は、参照すべきものまたは同義語で、むしろそちらに統一すべきものを示す。

例：ネコなき症候群→5 p- 症候群 (染色体異常が確認されており、また動物の名前は避けるという配慮)

pl. は複数形を示す。例：aphtha (pl. aphthae)